

政府の慰安婦調査

「われわれは、このような歴史の真実を、直視していきたい」。

「総じて」、窮余の3文字

韓国は「全体的に」と解釈

●駆け引き

「総じて」とは、全部ではないが大部分を意味する、という意図。日本政府が「強制」の解釈を広げていくことが、主眼点でみつけた。韓国政府は「全体的に」と解釈し、微妙な表現の差を、両国政府の考えの違いがにじむ。

だが、ソウルで証言した十六人も、祖父が独立運動をしていたために連行された人、工場を経て慰安所に送られた人、一もろかる仕事か、主眼点でみつけた。連行の状況については、資料を隠しても、強制を主張する側は、強制的に連れていかれたと主張する。韓国政府は「全体的に」と解釈し、微妙な表現の差を、両国政府の考えの違いがにじむ。

日本国内の意見も一色ではない。「一部強制を認めろ」と主張された。韓国政府は「全体的に」と解釈し、微妙な表現の差を、両国政府の考えの違いがにじむ。

軍捕虜名簿に慰安婦の名？ 調査団が公開 朝鮮人強制連行真相調査団は四日、米国立公文書館に保存されている日本軍の捕虜名簿を公開した。名簿はアルファベット順で、朝鮮人女性の名前もあり、調査団は元慰安婦が含まれているとみている。

名簿は計十七万人分におよび、朝鮮人と思われる名前が約一万人分含まれているという。調査団が公文書館に問い合わせたところ、名簿以外に捕虜一人ひとりの身の上調査がつけられていたが、すでに日本側に手渡されているという。

93 8/5 ④



聞き取り終了後、「証言を真相究明の資料とする」との日本政府の「約束」を疑む元慰安婦たち。7月31日、ソウルの太平洋戦争犠牲者追悼会事務所で、和解団員らと



資料調査は不足

吉見義明 中大教授

政府調査は、慰安婦の徴集、移送管理などが総じて強制的に行われたことや、強制的徴集に官憲が直接加担したことがあったことを認めた点で評価できる。しかし、資料調査の面で期待はできなかった。官憲による強制徴集への加担を認められず、朝鮮半島

だれも納得しない 「従軍慰安婦と十五年戦争」の著者でルポライターの西野聖子さんの話。早くケリをつけたい政府の意向がみえ、一回だけの聞き取り調査では十分ではない。慰安婦の「強制」に、徴集、拘束のほかに、戦時下の放逐も含まれる。いまだに日本やアジア各地で被害者は、被害を告げ

元慰安婦たちの実態を、政府や日本人自身がどれほど知っているのか。真相究明なしでは、何のために謝罪するのか、だれも納得しないではないか。

明らかに「一歩前進」 高崎宗司・津田塾大教授（朝鮮近代史）の話。官憲による強制連行の行方、使節の動き、戦時下の放逐も含まれる。いまだに日本やアジア各地で被害者は、被害を告げ

研究を取り入れるとしていく点など、明らかに「一歩前進」と見える。こうした姿勢を戦後補償に関する国会決議などに結びつけられれば、朝鮮半島についてはアジアの人々との真の和解の礎となるだろう。ただし、慰安婦問題は日本にとって何であるのか、それを明らかにする作業が、事実の行方、使節の動き、戦時下の放逐も含まれる。いまだに日本やアジア各地で被害者は、被害を告げ